

## 人と人との絆（きずな）

校長 大谷 慎也

3月となりました。立春を過ぎて、冬と春が日ごとに入れ替わり、桃の節句、啓蟄(けいちつ)、春分とようやく本格的な春を五感で味わえる時季を迎えます。

さて、忘れてはならない3・11東日本大震災から8年が経とうとしています。災害発生時には「自助・共助・公助」が重要です。先月23日(土)には、自治会と市役所、学校関係者による避難場所運営訓練が行われました。学校でも、避難訓練を実施する折ごとに、中学生には「自助・共助」が求められていることを生徒に説明してきました。その話の中で、被災地である岩手県の大船渡市立第一中学校の生徒有志が、震災から1週間後の3月18日に発行した手書きの学校新聞「希望」について紹介しました。新聞には、「声をかけて下さい！何でもやります。」という大見出しに、「……このような緊急事態の中で私達一中生に何が出来るのか、何をしてあげられるのか考えていきたいです。皆さんと共に力を合わせていきたいと思えます。私達に出来る事はとても限られていますが、水くみ・トイレ掃除・おつかい、何でもします。一中生に声をかけて仕事を下さい。特にご高齢の方は遠慮せず近所の一中生に声をかけ、何でもやらせて下さい。」という文言が続きます。この新聞は、避難所の方々にも配られました。生徒・学校職員の中に住居流失・全壊・半壊等の被害にあった方がいます。授業は再開できず、卒業式を挙げるはずだった学校も破損がひどく、3月23日、中学校とは別の施設で3段階の時間を設けて、3年生に卒業証書を、1・2年生に修了証が手渡されました。このような状況下、生徒は避難所の清掃、地域の川の清掃、避難所を慰問(いもん)しての合唱による激励等、様々に手分けをしてボランティア活動を行います。そして、6月1日、校庭での体育の授業と部活動が最後となりました。翌日から120戸の仮設住宅を建築するため工事が始まったからです。しかし、野球部は、7月の県大会で見事優勝します。続いて9月の新人大会では、野球・サッカー・男女ソフトテニス部が県大会で優勝します。勿論、仮設住宅の清掃等のボランティア活動を行いながらの結果です。生徒は互いに協力し合うとともに、地域に元気や希望を与え、人と人との絆の大切さを学びながら、地域を再興していきます。

本校では、地域におけるボランティア活動として、育成会や公民館の各事業、「浦和区秋のごみゼロ運動」等への参加を生徒に呼びかけ、啓発に努めてきました。また、運動部員が登校後に自主的に正門付近を清掃するなど、自分のためだけでなく、互いに協力し、他者のために尽くそうとする態度が養われつつあります。しかしながら、大船渡市立第一中学校の生徒には及びません。目指す学校像「一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、明るく活気に満ちた学校」を創るために一層の努力が必要であることをこの機会に改めて感じる次第であります。

3月は、学校にとりましては平成30年度の区切りとなる年度末の月でもあります。3年生は、2週間で卒業証書授与式を、1・2年生は20日余りで修了式を迎えます。式を迎えるにあたり、今までお世話になったり、助けられたりした人に「ありがとう」「ありがとうございました」という感謝の気持ちを、迷惑をかけた、謝らずにいたりした人に「ごめん」「すみませんでした」という反省の気持ちを言葉や態度で必ず示すように生徒に話そうと考えています。新しい道を進む、あるいは、新しい目標に向かう前に、人としてやらなければならないことがあります。あいさつは勿論のこと、感謝や反省は、人と人との絆を結ぶ上で大切なことです。

保護者の皆様、地域の皆様、本年度も木崎中学校の教育活動にご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。平成31年度も教職員一同、全力で教育指導にあたります。よろしく願い申し上げます。